

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第6回 河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会
2 開催日時	平成28年2月9日(火) 14時から
3 開催場所	市役所7階 行政委員会室
4 会議の概要	◎諮問 「河内長野市文化財保存活用計画の策定について」
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 生涯学習部 ふるさと交流課 (内線749)
8 その他	特になし

* 同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第6回河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会議事録

日 時 : 平成28年2月9日(火) 午後2時から午後4時
場 所 : 河内長野市役所 7階 行政委員会室
出席委員 : 櫻井 敏雄 委員長
樽野 博幸 副委員長
長田 寛康 委員
小栗栖 健治 委員
橋寺 知子 委員
佐久間 康富 委員
上田 霊宣 委員
鵜飼 武 委員
田中 伸之 委員
深海 秀友 委員
小林 章良 委員
松浦 隆 委員

出席オブザーバー : 地村 邦夫 大阪府教育委員会文化財保護課

事務局側出席者 : 和田 栄 河内長野市教育長
橋本 亨 河内長野市教育委員会生涯学習部長
井上 剛一 生涯学習部ふるさと交流課長
ふるさと交流課太田係長・八木沼副主査

案 件 : 河内長野市文化財保存活用計画の策定について

〈教育長挨拶〉

〈委員長挨拶〉

【開会】

説明1

〈事務局説明〉河内長野市文化財保存活用計画の内容と構成について

佐久間委員 : 日本遺産について、どのようなテーマやストーリーで考えているのか教えてほしい。

太田 : 5つの関連遺産群の中で、最も重要な中世一山寺院とこれに関連する遺産群に着目した。市内の観心寺や金剛寺が領主としての側面を持ち、単なる宗教施設をはるかに超え

た枠組みで様々な活動を行っている点を説明した。この中で、合議制による極めて民主的、共和的な政治が行われていた点を強調した。

櫻井委員長：歴史文化基本構想の策定が日本遺産申請の1つの条件となっているが、歴史文化基本構想を策定しているのは大阪府下では他にないのか？

地村氏：今後策定に向けて動こうとしている市町村はあるが、現在、着手しているところはない。策定しているのは河内長野市だけである。

佐久間委員：庁内連携は非常に大切である。市も行っている「地方創生総合戦略」では、移住者や交流人口の増加が掲げられており、文化財の担い手の確保という面でも、この辺りの連携を活かしてはどうか。

鵜飼委員：地域の自治会やその連合会は任期が2～3年であり、任期が終了すれば、その後の関わりがなくなってしまう。一方でまちづくり協議会では、任期が終了しても余韻が残り、その後の関わりも続く傾向にある。市民との連携という意味でも、今後大いにまちづくり協議会等の団体と関わりをもって進めてほしい。

太田：まちづくり協議会では旧村と開発団地が一緒になって進めているところが多くある。開発団地の人々が旧村に興味を持つきっかけともなっており、活用計画においても協議会と連携をもって進めていきたい。

松浦委員：協議会の活動例として、昔からある文化遺産をMAPに盛り込み、訪れる人に見てもらえるようにした事例が挙げられる。また、開発団地の人々が旧村を歩いて地域を知るといった活動も実施されている。協議会は自治会だけではなく、様々な地域団体が関わっている団体であり、このような活動が徐々に広がっていけば、文化財は非常に馴染みやすいテーマとなるのではないか。

櫻井委員長：若者を増やしていく手立てはないのか？

深海委員：これまでの都市計画マスタープランは市街地を主たる対象にしてきた。今回の都市計画マスタープランでは、5つの谷にも重きを置いている。5つの谷に隣接して開発団地がはりついている構図になっているので、今後開発団地の住民をどのように谷へ引き込んでいくのが課題である。行政として歴史的景観の講演等を開催するなど、情報発信をして担い手を確保していきたい。

長田委員：文化遺産は地区のものではあるが、守っていくのは地区のみではなく市民全体である。垣根をとり、皆の財産として皆で守れるような取組が必要である。また、発想を変えて、高齢者を活用し、若者を取り込んでいくような取組も必要である。

太田：公なPRのみでは若者は集まりづらいが、地域の顔役を通じた呼びかけに対しては若者が集まりやすいことがわかった。講演会等する上で地域の顔役に声をかけていくようにしていきたい。

橋寺委員：住民・住民外についても垣根は必要ない。住民外であっても、そこに行ってみることで親しみが湧き、地域に愛着がもてるようになる。また、調査する上で、近代のものは新しいが、解明されていないものが多い。高齢者の知見や昔の写真などを手がかりと

して、一緒に活動していったらどうか。

櫻井委員長：熊取町の煉瓦館は町民の使用率が高い。高齢者にとっては親しみがあり、若者にとっては新しいものとして人が集まる。

小栗栖委員：河内長野市には中世以降のものがかたちを変えながら現代社会に受け継がれている。例えば、河内長野市の神社の横にある村堂が現在でも自治会の集会所として使用されている事を知り驚いた。これは、中世における村堂の使われ方と同じである。中世ではこうした村堂を惣堂と呼び、村の寄合や集会をする場所だった。保存活用を考えていく中で、何気なく使っている建物の地域における役割、そこで行われている伝統的な民俗行事など、その意味を一つ一つひも解くことによって、自分たちの周りにある身近な歴史を感じてもらいたい。

太田：これまで無形民俗文化財について、あまり調査をしてこなかったのも、今後力を入れていきたい。

教育長：以前に八幡神社の湯立て神事に行った時に、その時初めて知ることが多々あった。しかし、子どもが参加していない事を残念に思った。自分たちのふるさとについて学ぶ機会がなかったことに気づき、以来「ふるさと学」というかたちで子供たちにふるさとの良さを学ぶ機会をつくった。

太田：「ふるさと学」について、これまで、市域全体の歴史を各学校で行っていたが、歴史の授業の延長と捉えられてしまいがちだった。現在、もっと身近な文化財を対象としてカリキュラムを組み換え、より親しみをもってもらえるよう考えている。

上田委員：現在は、文化財保存のために文化財があるという位置づけになっているように思う。新しい切り口で情報発信を行っていけば、活用も進むのではないかと？植木職人、文化財修復職人に近年、若い人が多くなった。彼らは、こうした仕事をアートと捉えているのではないだろうか？新しい切り口で情報発信する際の参考になる事例である。

田中委員：日本遺産においては、ストーリーが重要である。河内長野市だけではなく、近隣の市町村とも連携し、他市を引っ張っていくようなストーリー立ての検討もお願いしたい。また、活用資金を保存に繋げられるような好循環を編み出せると良い。

樽野副委員長：文化財は広い地域との関わりがあった上で、現在の位置に落ち着いている。行政区間にとらわれず、より広いものとして据える必要がある。

和田教育長：全国的な日本遺産認定を目指す行政の動きも都市間競争の一つの表れである。このような中、本市では、子どもを癒すためのツールとして、歴史文化遺産を活用していきたい。観光的な活用と市民の精神面での活用とのバランスをうまく図っていただければと思う。

櫻井委員長：「地域づくり」「～整備」これに代わる新たな言葉はないのか？

佐久間委員：地域に軸足を置き、連携を進めていくといったニュアンスになると思うが、この1年を通じて皆様と検討できればと思う。

長田委員：未指定文化財の評価方法が不透明である。建造物の登録文化財の精神に習い、

あなたの文化財は良いものだという気持ちだけでも伝えられないか。他市にあるような市民の推薦による市民文化財や、本市の登録文化財制度を積極的に活用すべきである。

【その他】

○今後のスケジュールを報告

【閉会】